

おうきゅう きゅうきゅうしゃ よ  
**応急手当の方法と救急車の呼び方**

さいがい 災害にあったとき、手当をしたくても ふだん 普段のように水や薬品が近くにあるとは限りません。身の周りにある物を使って、できる限りの おうきゅう 応急手当をすることも必要です。いろいろな手当の方法を知り、さいがいじ 災害時に そな 備えましょう。またたおれている人や大けがをした人のために かくにん 救急車の呼び方について確認しておきましょう。

**1 いろいろな応急手当の方法を知りましょう**

① こっせつ 骨折している場合の手当

はじめにどこが いた 痛いのかを聞きます。痛がっているところを見て、変形しているかどうかを確認します。変形している場合は動かしてはいけません。骨折しているところに、 さんかくしん そえ木をあてて三角巾などで固定します。

そえ木の工夫：ダンボール、 ざっし 雑誌、 かさ 傘、 つえなど



② きず 傷の手当

傷口がよごれている場合は、水道水で洗い流すことが大切です。災害時はペットボトルなどの水を工夫して使いましょう。

出血が続いている場合は、 けつえき 血液に ちよくせつ 直接ふれないようにビニルの手ぶくろをはめて、 きずぐち 傷口をおさえるか、きれいなガーゼを当てて血を止めるようにします。

ガーゼの工夫：ハンカチ、タオル、身近にあるきれいな ぬの 布など

③ やけどの手当

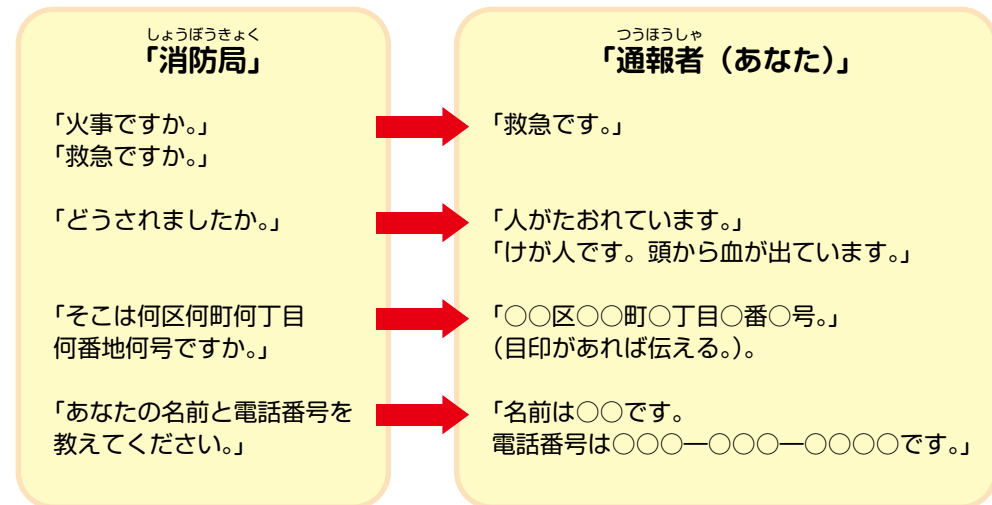
すぐに水で冷やします。服を無理にぬがさないで、服の上から水で冷やします。 さいきん 細菌が入らないように、水ぶくれができて め もつぶさないようにします。



**2 救急車の呼び方を覚えましょう**

＜119番へ電話をかける＞

まず落ち着いて、局番なしの119に電話する。係の人の しつもん 質問にははっきり答えましょう。



けいたい 携帯電話からの つうほう 通報では次のことに気を付けましょう。

- ① 携帯電話から通報していることを伝えます。
- ② なるべく現場からはなれないようにし、携帯電話の電源も入れたままにします。



**? 考えよう**

- 緊急時の きんきゅうじ 応急手当の仕方についてもっと調べてみましょう。
- 救急車への通報の仕方が分かったら、 じっさい 実際にかけているつもりで話してみましょう。